

★学校の教育目標 ○よく考える子ども ◎なかよくする子ども ○がんばりぬく子ども ○からだをきたえる子

★目指す学校像（ビジョン）

【目指す児童像】 ○課題を見付け、解決する力を伸ばす児童 ◎思いやりの気持ちをもち、人間関係を築ける児童 ○自分の目標に向かって、最後までやり遂げる児童 ○運動に親しみ、自らの健康に向かう児童

【目指す学校像】 ○児童が互いに学び合い、成長する学校 ○児童が安心して自分の良さを発揮できる学校 ○教職員がプロ意識をもち、達成感を味わえる学校 ○学校・保護者・地域が連携し信頼し合う、開かれた学校

【目指す教師像】 ○明るく前向きで、心身ともに健康な教師 ○子どもを認め、褒めて伸ばす、人間性豊かな教師 ○指導力向上のために努力する、プロ意識をもった教師 ○保護者・地域と連携し、児童の健全育成にあたる教師

★重点計画の概要

→あさひっこ「安心できる学校」プロジェクト 子供も大人も安心して活躍できる学校づくり

【設定理由】

- ・自己有用感や自己肯定感を高め、自信をもって表現できるようになってほしい。
- ・素直で優しい良さをもっているが、困難なことに対して挑戦し乗り越える力を付けてほしい。
- ◎分かる・できる授業改善(UD)、居心地の良い学級・学校づくり(SD)
- ◎多様な他者との交流による他者理解、地域と連携した学習
- 児童の主体性を育み、活躍する場の拡大

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標	評価点	成果指標				
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿	【8+プロジェクト】 学びの変革	○学校図書館を有効に活用し、児童が目的に応じた資料や本などを遊び、紙文化の良さにも触れながら、主体的に探究型の学習を進められるようにする。 ○探究的な学習では、取組の過程で動ましの声掛けや適切なフィードバックを行い、自己の課題解決に向けて、粘り強く取り組めるようにする。 ○アクティブラーニングやスポーツ月間などを通して、運動に親しみ、自己の目標の達成や体力向上のために最後までやり抜けるようにする。さらに、自主的な学びや取組を継続できるように投げ掛けを工夫する。	4 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が90%以上	3 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が80%以上	3 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が70%以上	4 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は紙・デジタルのハイブリッドの導入が予想される。またAIの活用もそう遠くないとは思う。それだけに紙の図書＝本を眺めることの価値づけが小学校期の子供たちには極めて大事と考える。様々な作例や文章を読み、自分の課題を自ら見つけてイメージを構成し、そして自ら文章にするこの重要性は、だからこそより重要性を推していると考えます。 ・子供たちの壁を乗り越える後押しを、教員が努力して下さる様子に期待が下がる。 ・指導員に目を奪われ、気軽なところに学習へのアプローチがあり、興味を引く内容が良いと思う。 ・図書部のレイアウトを変更したり、廊下に学習関連の書籍を配置したりと、探究学習がしやすいように環境を整えているのはとてもよいと思う。中核的な全員共通のルール化することで互に学び合っている子供たちの体力や能力の向上につながると思うので取組を継続していただきたい。 ・中核共通のルールには当初予定していたが、今のところの進捗であれば（なんとなく外で立ち話でもよい）、よい点もあることが分かった。
	学びの羅針盤・創造	変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、やり抜く姿	4 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が90%以上	3 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が80%以上	2 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が70%以上	4 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解行動がすべからず学校の、教員の問題に帰結されることが世の中の流れになってしまっている。「昔の家業・家族がよかった」というつもりはありませんが、こうした時代だからこそ家庭教育の重要性がもっと声高に叫ばれるべきと考える。この問題においてどうやって保護者にアプローチするかの、早急に考えてほしい。 ・授業以外にも研修研究を続けてくださり、分かる授業・魅力ある授業を期待する。 ・報道番組をスムーズにする得意な「声掛け」や、そのとっかかりの「挨拶」がとても重要。 ・子供たちが明るく楽しくなるように思う。先生方の声掛けが変わってきたように思う。教える技術はもううんたが、先生方が楽しんであげたいこの声が多量で増えたい。 ・PTA家庭教育懇話会（給食試食会）を実施。参加した保護者へのアンケート結果は、給食に対する理解が深まった（100%）、子供との会話が増えた（96%）だった。 	
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	【子供と大人の10+の姿】 学校の姿	【8+プロジェクト】 教職員の挑戦	○校内研究会やOJT等、年間を通した研修機会を設定し、教員同士が学び合うことで指導力の向上を図り、「分かる・できる」授業を展開できるようにする。またお互いの授業を見合える環境を整える。 ○組織的な取組を重視し、迅速に報告・連絡・相談を行うことで、早期に問題の解決を図れるようにする。 ○情報発信・共有の場を拡大することで、家庭や地域との関わりを深め、開かれた学校づくりに貢献できるようにする。 ○OCSとも連携して、家庭教育の重要性について、話し合う場や機会を設ける。	4 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が90%以上	3 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が80%以上	2 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が70%以上	4 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も教育重点目標を「なかよくする子ども」とし、保護者アンケートでは「先生は子供一人一人の個性やよさを思い返し、伸ばそうとしている。」という質問に対して、保護者からの肯定的評価が95%を超えた。しかし「なかよくする子ども」の達成については86%にとどまった。今後も様々な取組を工夫し、多様な他者との関わりを充実させる。 ・「自分の考えを伝えること」が継続して課題となっている。自分の考えをもちたせて上で、表現しても受け入れられる安心感や認められる成実感を積み重ねることが大切である。口頭で伝えず、記述を含めて、一人一人の考えを賞賛し、自信をもたせることで考えを伝える力を伸ばしていく。
	教職員の挑戦	目指す学校像に向け、チームとして挑戦し、成長を実感する姿	4 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が90%以上	3 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が80%以上	2 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が70%以上	4 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・自分への思いと同じく「人（他人）への思い」を大切にすることが大事だと考える。そのことが、「その思い」を出発点にした行動につながるのだと考える。インクルーシブ環境（異学年、幼保、様々な障がいを持つ方、高齢者など）との交流も継続的に行っていく必要がある。 ・興味を広げ、小さな気付きを育てる機会があるのは素晴らしい。 ・学期は大きな行事はないと見え、その学期もとさんの学校外での経験を経て、学ぶことがあった。また、教室に入れない子供たち、国籍の異なる子供たちを日常から自然に受け入れていくのがいいと思う。 ・道徳授業地区公開講座の講演会で、道徳を育むための視点・ヒントとなるお話しがあり、とても参考になった。講演会では毎回1内容なので、なるべく多くの方に関わっていただけるといいと思う。 ・子供によって歩みが違うので、この成果はやむを得ない。いつかは実現できること楽しみにしたいと思う。 	
みんなの多様な学びとあわせをつくる	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿	【8+プロジェクト】 多様な学びと学び方	○道徳授業や日常的な指導の積み重ねにより、自他ともに大切にすることを育成し、良好な人間関係が築けるようにする。 ○たてわり活動、異学年交流、幼稚園・保育園、障害のある方や高齢者等、多様な人との交流を通して、自分と他者を理解し認め合うことができるようにする。アスリートとの交流等、デフリンピックに関連した取組を行う。 ○校内研究では算数を研究教材とし、対話的な学びの良さを実感させ、安心して自分の考えを表現できるようにする。また、間違えによって学習が深まることを繰り返し指導する。	4 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が90%以上	3 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が80%以上	2 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が70%以上	4 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も教育重点目標を「なかよくする子ども」とし、保護者アンケートでは「先生は子供一人一人の個性やよさを思い返し、伸ばそうとしている。」という質問に対して、保護者からの肯定的評価が95%を超えた。しかし「なかよくする子ども」の達成については86%にとどまった。今後も様々な取組を工夫し、多様な他者との関わりを充実させる。 ・「自分の考えを伝えること」が継続して課題となっている。自分の考えをもちたせて上で、表現しても受け入れられる安心感や認められる成実感を積み重ねることが大切である。口頭で伝えず、記述を含めて、一人一人の考えを賞賛し、自信をもたせることで考えを伝える力を伸ばしていく。
	インクルーシブ	自分と他者の多様な個性を認め合い、みんなが安心して表現し、失敗を恐れず挑戦する姿	4 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が90%以上	3 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が80%以上	2 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が70%以上	4 児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童が90%以上	3 児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童が80%以上	2 児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童が70%以上	1 児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果で「学校があまり楽しくないまたは楽しくない」とした45人、11.1%の児童の真因分析を行い、そこを出発点とした課題改善をCSでも協議すべき（教員と子ども）と考える。児童にとっても考えやすい大きな課題だと考える。「授業で分かったり、できるようになる」と答える児童は29%。授業で分かったり、できるようになる」と答える児童は29%。授業で分かったり、できるようになる」と答える児童は29%。 ・学校が楽しくないと答える児童はどのような理由で聞いてみた。また、どのように対応したか教えていただきたい。 ・楽しいとは思えないまでも、少なくとも安心できる環境で過ごしてほしい。また、まわりの先生や友達と関わりあっているだけで嬉しく思っている安心感が生まれると思う。特に自立したくないと普通でやっている子に声を掛けて上げてほしい。 ・学校が楽しくないと答えた子供が1%もいるので、その原因を調べていきたい。どの子供も楽しいと思えるような学校づくりを目指してほしい。 ・「あなたにとって学校はどんな場所ですか。」のような問いで、児童の気持ちを探ってみたいと思う。 	
みんなの多様な学びとあわせをつくる	【子供と大人の10+の姿】 学校の姿	【8+プロジェクト】 安心できる学校	○どの児童にとっても居心地の良い学級・学校となるように環境を整える。（ひのSD）特に学校が楽しくないと回答している児童の原因を把握し、適切な支援を行う。 ○ユニバーサルデザインの視点（時間の構造化、情報伝達の工夫、参加の促進、内容の構造化等）を取り入れ、どの児童も分かる・できる授業を実践する。 ○登校渋り等が見られた場合は、すぐに校内支援委員会を開き、その児童に合ったきめ細やかな支援について協議する。 ○一人一人の分担システムにしたり、いろいろな児童に代表等を経験できるように工夫したりする。	4 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が90%以上	3 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が80%以上	2 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が70%以上	4 児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童が90%以上	3 児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童が80%以上	2 児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童が70%以上	1 児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと答えている児童が89%いるが、残りの11%の児童にどうアプローチしていくかが課題である。授業の理解度や友達との人間関係等、様々な要因が考えられる。一人一人に寄り合い、学級担任だけでなく、複数の教員で児童の様子を見守っていく。また、児童の活躍できる場を広げていく。 ・登校を渋る児童に対して、校内支援委員会を開いて対応を検討してきた。SSW等とも連携し、多方面からの情報収集や保護者との小さな連絡を心掛けてきた。当該の学級担任が一人で抱え込んだり、情報共有が滞ったりしないよう組織的かつ迅速な対応を継続する。
	居場所・活躍	子供たち全員の居場所と活躍の機会を支える姿	4 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が90%以上	3 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が80%以上	2 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が70%以上	4 児童が自分の考え・意見を他人に伝えることの重要性と同じく、他人の考え・意見を一旦受け入れることが重要と考える。その上で「考える」「考えを声に出す」「まだ聞く」の繰り返しがつまみ対話であることを理解し、実行することが重要であること各伝える必要がある。	3 児童が自分の考え・意見を他人に伝えることの重要性と同じく、他人の考え・意見を一旦受け入れることが重要と考える。その上で「考える」「考えを声に出す」「まだ聞く」の繰り返しがつまみ対話であることを理解し、実行することが重要であること各伝える必要がある。	2 児童が自分の考え・意見を他人に伝えることの重要性と同じく、他人の考え・意見を一旦受け入れることが重要と考える。その上で「考える」「考えを声に出す」「まだ聞く」の繰り返しがつまみ対話であることを理解し、実行することが重要であること各伝える必要がある。	4 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が80%以上	1 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%未満
社会と未来に開き、みんなてつくる	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿	【8+プロジェクト】 子供たちがつくる学校	○授業展開の中で、友達との対話を通して考えを深める時間を意図的に設定し、振り返り活動を通して、自分の考えの深まりを実感できるようにする。ミライシードによる考えの全体共有等、ICTを積極的に活用する。 ○特別活動や学級活動等で、児童が主体的に話し合う場面を設定する。話し合いでの決定事項に対しては、全員が協働的に取り組めるように支援する。 ○委員会活動では学校に役立つ児童発の取組について、学級活動では学級をよくする児童発の取組等について話し合う。	4 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が90%以上	3 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が80%以上	2 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が70%以上	4 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の考え・意見を他人に伝えることの重要性と同じく、他人の考え・意見を一旦受け入れることが重要と考える。その上で「考える」「考えを声に出す」「まだ聞く」の繰り返しがつまみ対話であることを理解し、実行することが重要であること各伝える必要がある。 ・「あさひっこ」で持っている児童と下級生の応援をお願いするが、意図的に対応してくれて、頼もしさを感じる。 ・話し合いの場で、ささげらず最後まで聞く、聞く側の姿勢や空気も大切に思う。 ・子供たちの「やりたい」が大切にされている。結果、自信をもって発言できる子、意見を言うことに抵抗がない子が増えているような気がする。とてもいい傾向。 ・話すことが苦手な子供たちに対して、安心して話せるような雰囲気づくりと言葉掛けを、担任の先生方には常にしてほしい。
	対話・協働	自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越えて協働する姿	4 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が90%以上	3 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が80%以上	2 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が70%以上	4 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・学校側の整備に関する4年生のプレゼンテーションをどう具現化するのかが増える。CS、こもれ守り隊、地域の協力、資金集めなど課題山積だが、創立50周年に向けたメイン課題として推進体制を構築することが必要と考える。 ・地域との交流が盛んな学校なので、子供たちも大人と話すのが好きで、自然環境がすぐ近くにあるとは知らなかった。ぜひ教員が活用してほしいという声も多かった。 ・防犯対策として来校者の名札の着用をきちんと義務付けているのもとてもよいと思う。 ・雑木林の清掃は前年度より課題にされていたので、児童と保護者の取組につながったのは良かった。 ・雑木林の整備・清掃に参加した保護者からは、このような素晴らしい自然環境がすぐ近くにあるとは知らなかった。ぜひ教員が活用してほしいという声も多かった。 ・児童による雑木林プロジェクトのプレゼン、素晴らしい発表で、児童の思いに近づけるよう、応援したい。 	
社会と未来に開き、みんなてつくる	【子供と大人の10+の姿】 学校の姿	【8+プロジェクト】 地域共創	○地域人材を活用した学習（旭が丘商工連合会、あさひボランティアによる学習支援、農家の方による栽培活動、地域企業による出前授業・見学等）を推進する。また、その成果を保護者やSDSに積極的に発信し良好な関係を築く。 ○OCSによる雑木林の整備、どんぐりクラブの方のご指導、見直しした年間活動計画等により、SDGsの取組や生活科・総合的な学習の時間（あさひタイム）の充実を図る。 ○地域行事への児童の参加や協力等を積極的に促し、人的交流を盛んにすることで、地域の風が行き交う学校を推進する。	4 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が90%以上	3 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が80%以上	2 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が70%以上	4 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も旭が丘連合商工会、農家の方による栽培活動、あさひボランティアによる学習支援等、地域の方の協力により充実した活動を行うことができた。また、講師による出前授業やデフリンピック観戦等も実施できた。 ・「雑木林での活動」については、4年生の雑木林プロジェクトを進めつつ、CSやこもれ守り隊等、開校50周年に向け、整備を進めていきつつ、各学年に活動を広げていく。 ・たきび祭等、参加人数が増え、地域との人的交流に貢献できた。今後も元日マラソン等、地域行事への積極的な参加を促していく。
	多様な参画	様々な当事者から応援され、多様な人材が活躍する姿	4 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が90%以上	3 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が80%以上	2 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が70%以上	4 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が90%以上	3 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が80%以上	2 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%以上	1 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も旭が丘連合商工会、農家の方による栽培活動、あさひボランティアによる学習支援等、地域の方の協力により充実した活動を行うことができた。また、講師による出前授業やデフリンピック観戦等も実施できた。 ・「雑木林での活動」については、4年生の雑木林プロジェクトを進めつつ、CSやこもれ守り隊等、開校50周年に向け、整備を進めていきつつ、各学年に活動を広げていく。 ・たきび祭等、参加人数が増え、地域との人的交流に貢献できた。今後も元日マラソン等、地域行事への積極的な参加を促していく。 	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。